

表 5 神戸市における新型インフルエンザ対策

有用であった対策

- 1 神戸大学医学部附属病院と神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市保健所が協同で、新型インフルエンザ対応を協議するための組織(連絡会議)を、新型インフルエンザ発生前の段階で立ち上げた。
- 2 医療機関と神戸市保健所、兵庫県疾病対策課が連携して新型インフルエンザが発生した場合の医療体制づくりを進めてゆくことを各機関の合意のもと決定した。
- 3 感染症指定医療機関や結核指定医療機関以外も含む 11 医療機関に発熱外来を設置することを取り決めた。
- 4 患者の重症度や臨床経過によって入院患者の収容施設を変更するなど、より具体的な入院患者の受け入れ体制を決定した。
- 5 決定事項を保健福祉局長に報告し、神戸市の正式な方針として承認を得た。
- 6 対策における中心的医療機関の医師と神戸市保健所の職員が神戸市内の医療機関に個別訪問し、新型インフルエンザ患者収容に関する協力依頼を行った。  
承諾の得られた 20 医療機関について ICU 収容、NICU 収容、人工呼吸管理、分娩妊婦、
- 7 透析、新生児・小児などの対応の可否についてリストを作成し、受入れ可能状況を神戸市内の医療機関向けにインターネットで公開した。

対応における問題点

- 1 神戸市医師会との連携が十分進んでおらず、患者がさらに増加した場合の医療機関の協力体制など、様々な状況を想定した対策の検討が不十分であった。  
連絡会とは別に、医療関係者を含まない新型インフルエンザ対策本部員会議が開催されるなど、実際に新型インフルエンザが発生した際の、初動時における行政と医療機関の連携に不十分な点があった。
- 3 医療機関を集めた会議の開催など、地域医療体制の構築に必要な行政のイニシアチブが不足していた。
- 4 行政の代表者が主たるメンバーである、新型インフルエンザ対策本部員会議での決定事項には、医療現場の実状にそぐわないものがあった。
- 5 医療現場が直面している問題点を解決するための決定権の所在が不明であった。新たな対策導入における決定の遅れが、医療現場において大きな負担となった。

# 第3回 東北感染制御 ネットワークフォーラム

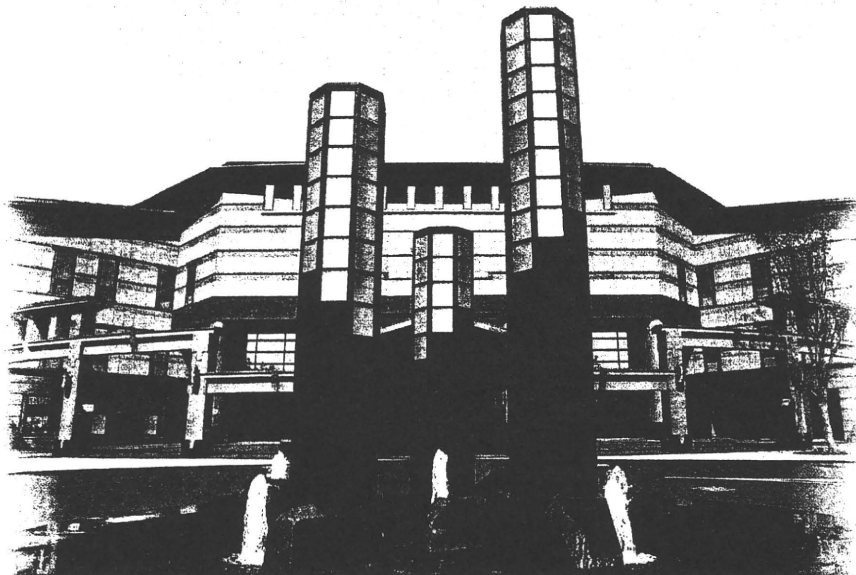
要旨集

2010年

8月28日(土) 13:00~20:00  
(展示 13:00~18:00)

29日(日) 9:30~16:00  
(展示 9:30~15:00)

仙台国際センター



主催 東北感染制御ネットワーク

# 第3回 東北感染制御 ネットワークフォーラム

## 要旨集

2010年 8月28日(土) 29日(日)

仙台国際センター



## 第3回 東北感染制御ネットワークフォーラム 要旨集

**会 期** 2010年8月28日(土) 13:00~20:00 (展示 13:00~18:00)  
29日(日) 9:30~16:00 (展示 9:30~15:00)

**会 場** 仙台国際センター  
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地  
TEL:022-265-2211 (代表)

**参加登録費** 3,000円

※本フォーラム参加者は、ICD（インфекションコントロールドクター）認定更新のための単位（2単位）、日本医師会生涯教育制度の単位（1日目:4単位、2日目:5単位）を取得できます。ご希望の方は、参加登録受付後、専用窓口へお越しください。なお、「薬剤師のためのICワークショップ」受講者には日病薬感染制御認定（1単位）、日本薬剤師研修センター（1単位）、日本病院薬剤師会生涯教育研修制度（1単位）も付与されます。

8月28日18:00からの『日本感染管理ネットワーク東北支部 第2回研修会』につきましては参加費2,000円が別途必要となります。

**主 催** 東北感染制御ネットワーク

**共 催** 東北大学大学院 感染制御・検査診断学、東北大学大学院 感染症診療地域連携寄附講座、東北大学大学院 臨床微生物解析治療学寄附講座、アステラス製薬株式会社、インバネス・メディカル・ジャパン株式会社、花王プロフェッショナル・サービス株式会社、杏林製薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、健栄製薬株式会社、塩野義製薬株式会社、シスメックス株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、積水メディカル株式会社、第一三共株式会社、大正富山医薬品株式会社、大日本住友製薬株式会社、田辺三菱製薬株式会社、テルモ株式会社、東京サラヤ株式会社、東北病院薬剤師会、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社、万有製薬株式会社、ファイザー株式会社、マイラン製薬株式会社、明治製薬株式会社、株式会社モレーンコーポレーション、吉田製薬株式会社

**協 賛 <展示会>**

株式会社エスアールエル、オペリネンユース研究会、花王プロフェッショナル・サービス株式会社、杏林製薬株式会社、健栄製薬株式会社、サラヤ株式会社、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社、シールドテック株式会社、株式会社ジェイ・エム・エス、柴田科学株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、スリーエムヘルスケア株式会社、積水メディカル株式会社、センチュリーメディカル株式会社、株式会社テトラス、テルモ株式会社、日本シャーウッド株式会社、ハクゾウメディカル株式会社、株式会社パルメディカル、扶桑薬品工業株式会社、マイラン製薬株式会社、丸石製薬株式会社、株式会社メディコン、株式会社モレーンコーポレーション、吉田製薬株式会社

**<広告>**

アステラス製薬株式会社、アークレイマーケティング株式会社、株式会社エイアンドティー、大塚製薬株式会社、花王プロフェッショナル・サービス株式会社、ケーディーアイコンズ株式会社、サラヤ株式会社、株式会社シバタインテック、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティックス株式会社、塩野義製薬株式会社、シスメックス株式会社、第一三共株式会社、大正富山医薬品株式会社、大日本住友製薬株式会社、株式会社テトラス、バイエル薬品工業、株式会社パルメディカル、富士レビオ株式会社、扶桑薬品工業株式会社、株式会社モレーンコーポレーション、ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

**後 援** 宮城県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県  
仙台市、宮城県医師会、仙台市医師会、東北厚生局

**事 務 局** 東北感染制御ネットワーク 事務局

東北大学大学院 感染制御・検査診断学

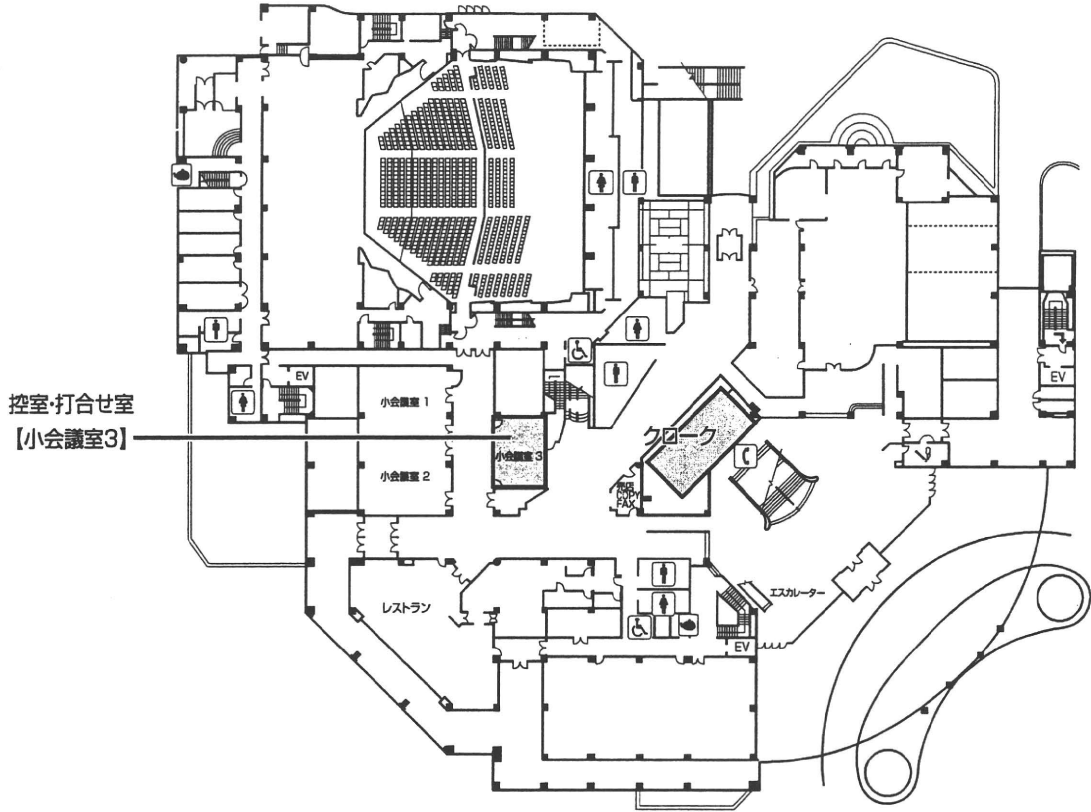
〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1

TEL:022-717-7373 FAX:022-717-7390

会場内には消毒液・マスクをご用意しております。  
体調には十分お気をつけください。

# 会場案内図

1F





# 日程表

## 【1日目】 8月28日(土)

会場名	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	展示会場	会場名
部屋名	大ホール	橘	萩	桜1	桜2	白樺1&2	部屋名
フロア	2階	2階	2階	2階	2階	3階	フロア
12:00							12:00
12:55							12:55
13:00	開会挨拶						13:00
14:00	特別講演1 「他職種から学ぶチーム医療 推進のポイント」 特別講演2 「チーム なるほどな」 と贈らせる歌米の 感染対策実践エピソード」	感染制御 ベジックレクチャー	「社」感染症 オープンカンファレンス 「感染症診療マネジメント ワークショップ」 一市中感染症から院内 感染症まで」	薬剤師のためのIC ワークショップ	Laboratory-based Infection Control ワークショップ 感染制御における検査情報・ 迅速診断検査の有用性	展示会/ ドリンクコーナー	14:00
15:00							15:00
16:00	スキルアップ教育講演1 「感染制御に関する 最近の話題」						16:00
17:00	アウトブレイク ビデオシミュレーションセミナー (環境感染学会教育委員会 講習会)						17:00
17:45							17:45
18:00							18:00
19:00					日本感染管理 ネットワーク東北支部 第2回研修会 「カテーテル関連尿路感染 サーベイランス—ケア改善への ながい道のり—カテーテル 関連尿路感染予防のための CDCガイドライン2009」		19:00
20:00							20:00

## 【2日目】 8月29日(日)

会場名	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	展示会場	会場名
部屋名	大ホール	橘	萩	桜1	桜2	白樺1&2	部屋名
フロア	2階	2階	2階	2階	2階	3階	フロア
8:00							8:00
9:00							9:00
10:00		感染管理 ベストプラクティス部会 シンポジウム	地域における 感染症診療・感染対策 に関するシンポジウム	MRSA感染症 マネジメント ワークショップ	感染症制御における ワクチン戦略	展示会/ ドリンクコーナー	10:00
11:00							11:00
12:00		教育セミナー1 「抗インフルエンザ薬の 最近の話題」	教育セミナー2 「呼吸器感染症診療の 現状と展望—インフルエンザ 対策を含めて—」	教育セミナー3 「真菌感染症における 感染制御」	教育セミナー4 「アメリカの感染対策ガイドラインを どう活かす?—ガイドラインの 読み方、解釈の仕方—」		12:00
13:00							13:00
13:15	スキルアップ教育講演2 「東北大学病院における感染症 コントロールチームの 実践と抗真菌薬の適正使用 —使用制限の是非を含めて—」 「これからの感染制御について考える —グローバル化を視野に入れて—」						13:15
14:00							14:00
14:45							14:45
15:00	スキルアップ教育講演3 「新型インフルエンザ対策 の総括と今後の対応」						15:00
15:45							15:45
16:00	フォーラム総括・閉会挨拶						16:00
17:00							17:00
18:00							18:00



8月28日(土)

第1会場(大ホール)

12:55~13:00 開会挨拶

13:00~14:00

特別講演1  
他職種から学ぶチーム医療推進のポイント

共催：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

司会：保嶋 実（弘前大学医学部 臨床検査医学講座 教授）  
演者：洪 愛子（社団法人日本看護協会 常任理事）

14:00~15:00

特別講演2  
“う〜ん なるほどな”と唸らせる欧米の感染対策実践エトセトラ

共催：杏林製薬株式会社

司会：金光 敬二（福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学 教授）  
演者：土井 英史（特定非営利活動法人日本感染管理支援協会 理事長）

15:30~16:30

スキルアップ教育講演1  
感染制御に関する最近の話題

共催：吉田製薬株式会社

司会：賀来 満夫（東北大学大学院 感染制御・検査診断学 教授）  
演者：大久保 憲（東京医療保健大学大学院 感染制御学 教授）

16:30~17:45

アウトブレイクビデオシミュレーションセミナー  
(環境感染学会教育委員会講習会)  
基本的な感染対策の重要性を再認識する：  
集団発生事例から見る日常の感染対策

共催：サラヤ株式会社

座長：森兼 啓太（山形大学医学部附属病院 検査部 副部長 准教授  
感染制御部 副部長）

西條 美恵（石巻赤十字病院 感染管理認定看護師）

1. オープニング動画「OUTBREAK（日本環境感染学会教育委員会 制作）」

2. 動画の問題点の復習

目黒 美保（仙台厚生病院 感染管理認定看護師）

3. 適切な洗浄・消毒方法

外館 善裕（岩手県立中央病院 感染管理認定看護師）

4. 集団感染事例を疑った場合の臨床微生物検査担当技師の役割

佐藤 智明（山形大学医学部附属病院検査部 技師長・認定臨床微生物検査技師）

5. 質疑応答

---

## 第2会場(橘)

---

共催：マイラン製薬株式会社  
田辺三菱製薬株式会社

### 13:00～15:00 感染制御ベーシックレクチャー

司会：國島 広之（東北大学大学院 感染症診療地域連携講座）

#### 13:00～13:20 【1. 標準予防策・職業感染対策】

金森 肇（東北大学大学院 感染制御・検査診断学）

#### 13:20～13:40 【2. 薬剤耐性菌対策】

石橋 令臣（東北大学大学院 感染制御・検査診断学）

#### 13:40～14:00 【3. ノロウイルス、結核対策】

青柳 哲史（東北大学病院 検査部）

#### 14:00～14:20 【4. 消毒と滅菌】

八田 益充（東北大学大学院 感染症診療地域連携講座）

#### 14:20～14:50 【5. 感染対策における情報の活用】

加來 浩器（防衛医科大学校・防衛医学研究センター 情報システム研究部門  
准教授）

#### 14:50～15:00 全体質疑応答

第3会場 (萩)

共催：ファイザー株式会社

13:00～15:00

**“杜の都” 感染症オープンカンファレンス  
「感染症診療マネジメントワークショップ」  
ー市中感染症から院内感染症までー**

総合司会：平潟 洋一（東北大学大学院 臨床微生物解析治療学 教授）

13:00～13:30

**【キーノートレクチャー（基調講演）】**

座長：平潟 洋一（東北大学大学院 臨床微生物解析治療学 教授）

演者：前崎 繁文（埼玉医科大学 感染症科・感染制御科 教授）

13:30～15:00

**【症例検討会】**

座長：武内 健一（岩手県立中央病院 副院長・感染管理部長）

演者：本田 芳宏（仙台厚生病院 副院長・呼吸器センター呼吸器内科 主任部長）

コメンテーター：前崎 繁文（埼玉医科大学 感染症科・感染制御科 教授）

平潟 洋一（東北大学大学院 臨床微生物解析治療学 教授）

症例提示：●=発表者

1. ●大塚 竜也（仙台赤十字病院 呼吸器内科）  
三木 誠（仙台赤十字病院 呼吸器内科 部長 検査診療部長）
2. ●岡田 信司（みやぎ県南中核病院 呼吸器内科）
3. ●浅沼敬一郎（東北大学病院 高度救命救急センター）  
野村 亮介（東北大学病院 高度救命救急センター）  
北野 夕佳（東北大学病院 高度救命救急センター）  
佐藤 武揚（東北大学病院 高度救命救急センター）  
山内 聡（東北大学病院 高度救命救急センター）
4. 川台英一郎（東北大学病院 小児科）  
●柿崎 周平（東北大学病院 小児科）  
土屋 滋（東北大学病院 小児科 教授）

（順不同）

---

## 第4会場(桜1)

---

共催：東北病院薬剤師会  
明治製菓株式会社  
健栄製菓株式会社

### 13:00~15:00 薬剤師のためのICワークショップ

#### 【開会挨拶】

白石 正 (山形大学医学部附属病院 薬剤部 教授)

### 13:00-14:00 【教育講演1 抗菌薬使用と耐性菌に関するサーベイランスについて —地域におけるネットワーク化を中心に—】

座長：平賀 元 (八戸市立市民病院 薬局長)

演者：佐和 章弘 (広島国際大学 薬学部 臨床薬学 准教授)

### 14:00-15:00 【教育講演2 有効率と安全性を上げて耐性菌を抑える適正抗菌薬療法を考える】

座長：白石 正 (山形大学医学部附属病院 薬剤部 教授)

演者：渡辺 彰 (東北大学加齢医学研究所 抗感染症薬開発研究部門 教授)

#### 【閉会挨拶】

平賀 元 (八戸市立市民病院 薬局長)

第5会場 (桜2)

共催：シスメックス株式会社  
積水メディカル株式会社  
インバネス・メディカル・ジャパン株式会社

13:00~15:00

**Laboratory-based Infection Control ワークショップ**  
**感染制御における検査情報・迅速診断検査の有用性**

座長：竹村 弘（聖マリアンナ医科大学 感染制御部 教授）  
大花 昇（福島県立医科大学附属病院 検査部 技師長）

1. キーノートレクチャー（基調講演）：

「感染制御における感染症情報共有化の試み

- 秋田大学を中心とした地域情報ネットワーク構築の新たな試み」

萱場 広之（秋田大学医学部 感染・免疫アレルギー・病態検査学 准教授）

2. 感染制御における迅速診断の有用性

① インフルエンザ対策

今福 裕司（福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学 准教授）

② レジオネラ・肺炎球菌対策

竹村 弘（聖マリアンナ医科大学 感染制御部 教授）

3. 統括発言

長沢 光章（東北大学病院 検査部 技師長）

共催：株式会社モレーンコーポレーション

18:00 ~ 20:00

**日本感染管理ネットワーク東北支部 第2回研修会**

**カテーテル関連尿路感染サーベイランス**

**～ケア改善へのながい道のり～ / カテーテル関連尿路感染予防  
のための CDC ガイドライン 2009**

司会：森 浩子（福島県立医科大学附属病院 感染制御部）

演者：柴谷 涼子（大阪厚生年金病院 看護部 看護ケア推進室）

展示会場 (白櫃1&2)

13:00~18:00

**展示会**

---

8月29日(日)

第1会場(大ホール)

13:15~14:45

スキルアップ教育講演2

共催：大日本住友製薬株式会社

司会：賀来 満夫（東北大学大学院 感染制御・検査診断学 教授）

東北大学病院における感染症コンサルテーションの実際と抗菌薬の適正使用～使用制限の是非を含めて～

演者：平潟 洋一（東北大学大学院 臨床微生物解析治療学 教授）

これからの感染制御について考える  
～グローバル化を視野に入れて～

演者：岩田 敏（慶應義塾大学医学部 感染制御センター 教授）

---

14:45~15:45

スキルアップ教育講演3

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

新型インフルエンザ対策の総括と今後の対応

司会：賀来 満夫（東北大学大学院 感染制御・検査診断学 教授）

演者：永井 英明（独立行政法人 国立病院機構 東京病院 外来診療部長）

---

15:45~16:00

フォーラム総括・閉会挨拶

第2会場(橘)

共催：花王プロフェッショナル・サービス株式会社

9:30~11:30 **感染管理ベストプラクティス部会シンポジウム  
東北感染制御ネットワークベストプラクティス部会ワークショップ**

座長：佐々木浩美（スズキ記念病院 感染管理認定看護師）

小川 伸（市立横手病院 感染管理認定看護師）

9:30-10:00

【基調講演】

『感染管理ベストプラクティスの考え方～なぜ実践現場をひきつける～』

土井 英史（特定非営利活動法人日本感染管理支援協会 理事長）

10:00-11:20

【パネルディスカッション】

『感染管理ベストプラクティスを行うことによって、何がよかった？何がわかった？何が動いた？何が変わった？そして…』

・東北感染制御ネットワークベストプラクティス部会活動報告

小山田厚子（独立行政法人国立病院機構宮城病院 感染管理認定看護師）

・事例発表

■何がよかった？

『変革をもたらすおむつ交換手順への取り組み』

金澤 環樹（介護老人保健施設ナーシングホームオリーブ 療養棟 介護福祉士）

■何がわかった？

『閉鎖式尿道カテーテル留置ベストプラクティスを作成して・・・』

佐藤江津子（いわき市立総合磐城共立病院 看護師長）

■何が動いた？

『組織を動かす看護部の活動』

高野 俊子（済生会山形済生病院 看護師長）

■何が変わった？

『実施前後での意識の変化～喀痰吸引ベストプラクティスの取り組みから～』

石黒 愛（市立秋田総合病院 中央部門（集中治療室））

『感染管理認定看護師不在の小規模病院が感染管理ベストプラクティスに取り組む事で得られた成果』

但木 恵子（医療法人永仁会永仁会病院 医療安全管理室 室長）

・全体討議

・そして…今後の展望

菊地 義弘（宮城県立がんセンター 感染管理認定看護師）

11:20-11:30

【総括発言】

賀来 満夫（東北大学大学院 感染制御・検査診断学 教授）

12:00~13:00

**教育セミナー 1**

**抗インフルエンザ薬の最近の話題**

共催：第一三共株式会社

司会：賀来 満夫（東北大学大学院 感染制御・検査診断学 教授）

演者：柏木征三郎（博多駅前かしわざクリニック 院長、国立病院九州医療センター 名誉院長）

---

**第3会場 (萩)**

共催：大正富山医薬品株式会社

**9:30~11:30 地域における感染症診療・感染対策に関するシンポジウム**

座長：永井 幸夫（仙台市医師会 会長（永井小児科医院））  
國島 広之（東北大学大学院 感染症診療地域連携講座）

1. 外来診療における感染症と感染対策  
福田 陽一（福田内科クリニック 院長）
2. 入院診療における感染対策（新型インフルエンザの経験から）  
貴田岡節子（仙台医療センター 小児科部長）
3. 社会福祉施設における感染対策  
遠藤 史郎（東北大学大学院 感染制御・検査診断学）
4. 地域における感染制御  
國島 広之（東北大学大学院 感染症診療地域連携講座）

---

**12:00~13:00 教育セミナー 2**

共催：塩野義製薬株式会社

**呼吸器感染症診療の現状と展望  
ーインフルエンザ対策を含めてー**

司会：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所 抗感染症薬開発研究部門 教授）  
演者：門田 淳一（大分大学医学部 総合内科学第二講座 教授）



---

第4会場 (桜1)

---

共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

9:30~11:30

**MRSA 感染症マネジメントワークショップ**

座長：金光 敬二（福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学 教授）

武田 博明（済生会山形済生病院 呼吸器内科 統括診療部長）

1. トピックレクチャー

【市中感染型 MRSA】

矢野 寿一（東北大学大学院 臨床微生物解析治療学）

2. MRSA 感染症マネジメントの実際と課題

① 予防の観点から

【MRSA 感染制御におけるアクティブサーベイランスの有用性】

竹村 弘（聖マリアンナ医科大学 感染制御部 教授）

② 診断の観点から

【MRSA を含むブドウ球菌による血流感染について】

矢越美智子（日本大学医学部附属板橋病院 臨床検査部 技術長補佐）

③ 治療の観点から

【MRSA 感染症治療の現状と課題】

飯島 秀弥（仙台オープン病院 呼吸器内科 部長）

---

12:00~13:00

**教育セミナー3**

共催：アステラス製薬株式会社

**「真菌感染症における感染制御」**

司会：光武耕太郎（埼玉医科大学 国際医療センター 感染症・感染制御科 教授）

演者：國島 広之（東北大学大学院 感染症診療地域連携講座）

---

## 第5会場(桜2)

---

共催：万有製薬株式会社

### 9:30~11:30 感染症制御におけるワクチン戦略

座長：岩崎恵美子（健康予防政策機構 代表）

#### 1. インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチン

渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所 抗感染症開発研究部門 教授）

#### 2. 新しいワクチンについて

－ Hib、小児用肺炎球菌ワクチン、HPV、ロタウィルスワクチン－

宮津 光伸（名鉄病院 予防接種センター 部長）

---

### 12:00~13:00 教育セミナー 4

共催：テルモ株式会社

#### アメリカの感染対策ガイドラインをどう活かす？ ～ガイドラインの読み方、解釈の仕方～

司会：櫻井 滋（岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座 准教授  
附属病院 医療安全管理部 感染症対策室 室長）

演者：森兼 啓太（山形大学医学部附属病院 検査部 副部長 准教授  
感染制御部 副部長）

---

## 展示会場(白樺1&2)

---

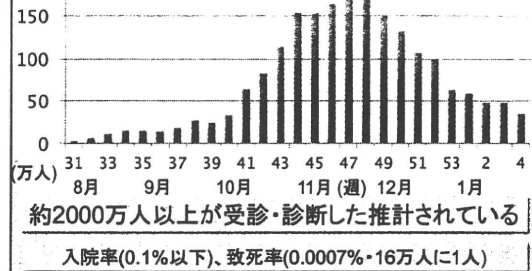
### 9:30~15:00 展示会

## インフルエンザと薬剤耐性菌を 地域でどうみるか

東北大学大学院 感染症診療地域連携講座

國島 広之: h2kuni@mail.tains.tohoku.ac.jp

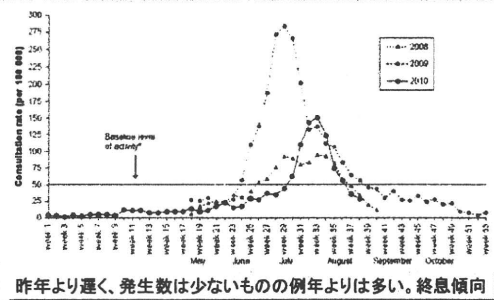
## 我が国におけるインフルエンザH1N12009



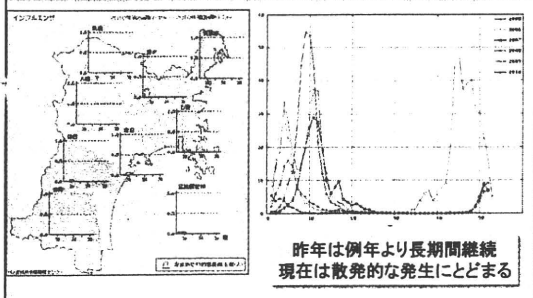
## インフルエンザウイルスの型別の状況



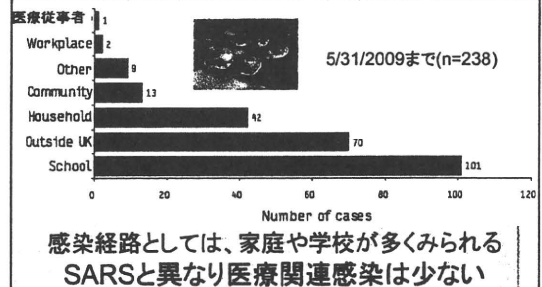
## ニュージーランドにおける状況



## 宮城県におけるインフルエンザ



## 新型インフルエンザ: 英国



## 感染症の伝播

NEJM 1989;321:204-10, ICHE 2004;25:105-108, Am J Med 2002; 97:1769-75

病原微生物	皮膚	口腔	消化管	上気道	下部気道
ブドウ球菌 MRSA	+++	+	++	++	-
腸球菌 VRE			++		
腸内細菌 ESBLs		(+)	+++	(+)	(+)
緑膿菌 MDRP		+			
<i>Clostridium difficile</i>			+		

薬剤耐性菌(日和見)感染症



多くは保菌者で良く分からない

インフルエンザ



多くは発症者で分かり易い

保菌者対応も求められるMRSAより、  
インフルエンザの方が医療施設では対応は行い易い

## 検体採取時における注意点



良い例  
-患者の顔を横向きにして採取する  
-スワブは鼻から咽喉後部までしっかり入れる  
-手袋、サージカルマスクを着用する  
(咳が出る患者の場合、標準予防策に基づきシールド付マスクを着用する)

悪い例  
-患者の正面に立って採取している  
-スワブを水平に入れていない  
-スワブを奥まで入れていない  
-個人防護具(手袋・マスク)を着用していない

## インフルエンザと室内換気

Am J Epidemiol 1979;110:1-6



機内の換気システムが2~3時間停止し、  
乗客・乗務員の72%がインフルエンザに  
感染した。

WHO 医療施設における急性呼吸器感染症パンデミック対応ガイドライン 2007

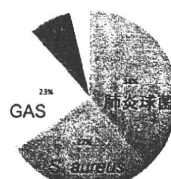


空調換気	入り口	外気窓	換気回数 (1時間あたり)
なし	閉めている	閉めている	0.71
なし	開けている	開けている	14.0
オン	閉めている	開けている	12.6

インフルエンザ対策としては換気が重要

## 新型インフルエンザと二次性細菌感染症

MMWR, Oct 2, 2009;58(38):1071-1074



二次性の細菌性感染症による死亡例について  
These findings confirm that bacterial lung infections are occurring among patients with fatal cases of 2009 pandemic influenza A (H1N1) and underscore both the importance of pneumococcal vaccination for persons at increased risk for pneumococcal pneumonia and the need for early recognition of bacterial pneumonia in persons with influenza.

細菌感染症への適切な抗菌化学療法が重要

## インフルエンザ菌症例

49才、男性。基礎疾患：高血圧、糖尿病(HgbA1c 6.2%)  
曝露歴：職場で隣席の同僚が新型インフルエンザと診断  
2009年9月26日より鼻汁・咳嗽あり。40°Cを超える発熱あり。  
3月29日、近医受診。インフルエンザ抗原検査は陰性。流行状況・  
曝露歴から、臨床診断されタミフルを処方された。  
10/2 急患センター受診し、転院。血培：H. influenzae b (BLNAR)



右肺：course crackles  
HR115, BP83/65, RR32  
SpO2 91% (O2 free)  
WBC 17,700, CRP46.95  
CTRX, CFPM, LVFXで軽快

## インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチン

Eur Respir J: 2004; Mar; 23(3):363-8

Table 4. In-hospital mortality per 100,000 individuals after receiving separate influenza or pneumococcal vaccines, or both compared with no vaccine between December 1, 1999 and November 30, 2000

Diseases	Vaccine given			
	Influenza	Pneumococcal	Both	None
Soliders 8	2936	2298	7287	23403
Influenza*	6.8	4.3	1.8	9.7
OR (95% CI)	0.79 (0.53-1.1)	0.44 (0.26-0.75)	0.29 (0.16-0.51)	
p-value	<0.04	<0.02	<0.001	
Pneumococcal	299.9	318.3	223.3	342.4
OR (95% CI)	0.84 (0.66-1.1)	0.93 (0.72-1.19)	0.65 (0.54-0.78)	
p-value	<0.14	<0.16	<0.001	

OR, odds ratio; CI, confidence interval; \*, with and without influenza pneumonia. All p-values comparisons are against the unvaccinated control.

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを  
接種すると、重症になることを防ぐことができる

2009年から肺炎球菌ワクチンは、  
我が国でも2回目の接種が可能